

# 「自然の恵み 海の幸」 恵海だより第1号

平成 18年4月 18日発行

〒039-0841

発行：青森県立海洋学院

八戸市大字鮫町字下盲久保 25-131 電話 0178-33-0049 FAX 0178-33-2695

## (発行にあたり)

本学院は昭和 12 年（1937）に青森県漁民修練道場賓陽塾として開校以来、これまでに 1,647 名の修了生を青森県漁業の中核的漁業者として送り出しました。

行政改革により廃止の方針になっておりますが、本年度までの 70 年の歴史をふまえ、最後の 1 年間ですが、学院生活を中心に、周辺の旬の便りを交えて「攻めの水産業」一環として適宜、学院生の成長と話題をお伝えします。

- \* 海洋学院：1 年間の全寮制、小型船舶資格を始め、漁業関連技能の習得の場
- \* 本紙の題名は、学院歌（土井晚翠作詞）の一節と恵海寮にちなんでいます。

## 《明日の漁業を担う人材を目指して 精鋭 14 名の海洋学院生が入学》

4 月 11 日に海洋学院生として入学を許可され海の男としてのスタートを切りました。先日の休日には近くで魚釣りを楽しんだ学院生もいました。

今後、学院生活を振り返って有意義であったと言われるよう職員一同頑張っていきたいと思っています。

学院生は、海洋学院丸という船舶に乗り組むこととなります。

この団体生活を営むために、また、社会生活を送る上でルールを守ることが重要であり、厳しい規律の下、実習、寮生活が行われています。

来年の 3 月 15 日の修了式には、逞しく育った学院生が、青森県の中核的漁業者として



入学を見守る保護者の方

巣立つこととなります。



14 名の新学院生

知事挨拶（出納長代理）



知事挨拶（出納長代理）

## 《旬の風景：陽春の鮫浜浦で海藻拾い》

この時期、干潮の時には、マツモ、コンブ、スジメ（ジョガメ）、アカハタモチの材料であるアカバギナンソウなどの海藻取りに漁業者の方が精を出していました。

海洋学院に隣接する浜手には、日本むかしばなしで有名な「八戸太郎（鯨石）」伝説で有名な西宮神社があります。

ぜひ、一度ご覧下さい。



磯漁業と燕島



背景に西宮神社

## 《講義及び実習状況》

入学直後の自己紹介、学院生活、講義及び実習の概要等の説明から始まりました。ほとんどの学院生が、漁業者としての父親を尊敬し、乗り越え、立派な漁業者になることを目指しています。



小倉学院長の講義

まだ、作業服、合羽等がそろっていないので、乗船実習がなく、待ちきれない様子ですが、ロープワーク（結索）では、



ロープワーク（三つ編み）

皆、真剣な取り組みが見られています。

ただし、日頃の作業の手伝い等により、かなりの習熟の差が見られます。



寮の給食は、美味しい！

寮生活では、好き嫌いもなく、給食をほとんど残さず美味しく食べています。

また、朝礼後のラジオ体操、腕立て伏せを教官共々頑張っています。

ふうふういっ



毎朝の腕立て伏せ

てますが、1年間の鍛錬の後には、軽くこなすようになります。

4月16日には、本学院に近い弁財天を祭っている蕪島の祭礼があり、あいにくの冷たい雨のため、約3万5千人の人出でにとどまりました。

5月に入るとウミネコの産卵と雛が生まれます。

好天の日には、蕪島から種差海岸への遊歩道をウォーキングされる方が多く見られます。

「おんでやあんせ 八戸」



ウミネコの繁殖地 蕪島

## 《今後の予定等》

### ◎船舶安全衛生講習会

4月26日に八戸市水産会館にて、標記講習会に出席します。

### ◎特別休暇 4月28日～5月7日

4月28日朝食後帰宅、5月7日20:00まで寮に帰るよう指示しています。

\* 入学直後の緊張と慣れない寮生活から、一時のリフレッシュを！

### ◎漁村交流実習（日本海漁業者宅でのホームステイ実習） 2泊3日

5月9～11日 青森県漁業士に認定されている漁業者から指導を受けます。

### ◎ガス・アーク溶接実習・講習（青森県立工科学院）

5月15～25日の間、実技3日間、講習6日間実施します。